

### 3. 高3現代文授業概要

#### 1. 到達目標

高3現代文では、東大の過去問を中心とする記述・論述型の問題を扱い、東大に特徴的な出題傾向を確認しながら東大合格に必要な論理力の養成、解答作成の技術等を教授します。

東大の国語の試験は、2000年に大きく様変わりをし、2001年以後はそれを継承する形となっています。しかし、形式面の変化の一方で、試験内容としては特別目新しいものはなく、言葉に対する真摯な姿勢を持ちつつ学習していくことが実力養成の近道であることは、今も昔も変わりありません。

情報の的確な把握と各情報の統合的理解を求められる現代文という教科の性質に対応して、近年の東大の入試問題は、随筆を除けば基本的に、論文をはじめとした硬質な文章から出題されています。大学で研究を進めていくためという意味での「基礎」学力を備えているかが、そのような文章を素材として「高度」なレベルで問われています。そのレベルでの語彙力、そして硬質な文章を自力で読み解く読解力が以前に比べて必要になっていると言えます。

第一問（文理共通）は評論問題です。3,000～3,500字の文章が出題されます。ここ最近の大学研究者の間で話題となり、考察が幅広く展開されているテーマの文章が出題される傾向も見られます。また、漢字の書き取りが必ず出題されます。

一方、第四問は文系のみに課される問題です。文芸色の濃い文章やエッセイが出題される傾向が続いています。文章全体を見渡す中で筆者の中心主張を端的に捉えること、そして設問に対して論理的にかつ的を射た言葉で説明することが大切と言えます。この作業は現代文の本質とも言えるものであり、また共通テストでは小説に限らず広く文芸関連の文章が出題される傾向と考えられますから、理系の方も積極的に学習していくようにしてください。

設問形式としてはすべて、傍線部が引かれた箇所の内容説明、または理由説明です。しかし形式としてはそうであっても、傍線部という部分だけに注目してはその傍線部の理解さえおぼつかないものです。傍線部を取り巻く論理がいかなるものか、それを見抜くことが東大の現代文では求められています。

高3現代文では、文章構造に則った着実な読解の学習、そして、設問の要求に的確に沿った説明をする学習を進めていきます。

#### 2. 授業進行表

課題解説	テスト演習	テスト演習解説
0	60	80 120



## (4) 「端的に、効果的に」

何を答えるのか、という当然のことをまずは考えること。何となく答えを作ってしまうという人が割合に多い。何が問われているのか、そして何について答えるのか、答えの要素は一つなのか複数なのか、どの部分を強調して答えるべきなのか。これらすべては文章の中にヒントがある。実際に自分の手を使って書いてみる。頭の中で「このような答えになるだろう」と思ってそれで終わってしまったのは、表現の勉強にもならなければ、実は読解力の養成にも役だててはいない。さらに現代文の答えが文中の語のつながり合わせで済むと思っているならば、早いうちにその考えは捨てておく必要がある。

## (5) 読解の際に

文章の種類により「読めた、読めなかった」という波がおこるとするのは、当人の好みとも関わることでだが、文章を「気分」で読むのはやめなければいけない。大体こんなことを言っているのだろうという読解は、根本的に読解の方法が間違っている。筆者が主張したいと思っている内容（文章の頂点）と、そこにまで至る論拠の関係をまずは押さえること。そのために一文一文がなぜそこにおかれているのか、どういう関係でつながっていつているのかを自分で判断していかなければならない。この学習は確かに時間はかかるが、数題をこのように読解していくだけで文章の読み方は著しく向上する。

## (6) 解答と設問の関係

文章というものが「主張内容」という頂点に向かって有機的につながっているものであるとすれば、傍線を施された箇所の文章が、文章全体の中でいかなる位置を占めているのかを理解しておかねばなるまい。解答においては、傍線を施された箇所の言葉に注目する「部分」への眼と、文章全体との関係を見定める「全体」への眼の両方を駆使していかなければならない。

## 4. その他

現代文はセンスだといわれるがはたしてそうだろうか。その「センス」とは実は数学でも英語でもついてまわるのではなかろうか。

現代文の勉強が疎んじられてきた理由の一つはその方法論が確立していないためである。よって結果的に「読めた、読めない」だけが問題とされてきた。

現代文読解の武器は「言葉」である。それも特別なものではない。ちょっと難しめの言葉遣いでも新聞には載っているレベルである。主述関係のような「文の構造」を把握し、わからない言葉は辞書で確かめ、一文ずつ理解していく。その積み重ねでしか文章全体の理解に到達することはできない。この学習は時間はかかるが、量的に多くを必要とはしない。現代文の本質は、今までの読書量でも知識の有無でもセンスでもない。「言葉」への意識である。

段落の主旨 → 部分の論理の流れ  
 ↳ その段落の役割  
 抽象を採る  
 テーマを採る  
 → しっかりとまとめて構造をはき、きりとした上で、ラベリング  
 その後 ヒーク＝テーマを定めて大筋へと